



# 中央アジア各国経済データ集

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部

2025年12月

# 目次

I.	概況	3
II.	各国経済	8
III.	対外経済関係	16
IV.	日本との関係	25

# I . 概況

# 1 | 中央アジア地図



## 2 | 中央アジア各国の概況（1）

### ウズベキスタン

#### 元首：シャフカト・ミルジヨエフ大統領



- 就任前は地方知事、首相を歴任。
- カリモフ大統領急逝に伴い、2016年に就任。

#### 経済概況

- 主要産業は綿花栽培。天然資源にも恵まれ、天然ガス、ウラン、金などが豊富。一次産業が主体の経済であり、産業の高度化が課題。
- 大統領は経済システムの自由化、投資環境の改善を重視。2017年に為替レートの統一を行うとともに、外貨兌換・持出しに対する制限が撤廃された。

#### 主要産業

- 綿繊維産業、食品加工、機械製作、金、石油、天然ガス

### カザフスタン

#### 元首：カシムジョマルト・トカエフ大統領



- 外交官育成機関であるモスクワ国際関係大と北京語学院卒。外相、首相、上院議長を歴任。
- 2019年、上院議長時にナザルバエフ大統領が辞任を表明、憲法により大統領に就任。

#### 経済概況

- 石油、天然ガスなどのエネルギー資源、鉱物資源に恵まれた資源大国。原油はロシア向け、ロシアやコーカサス地域経由での欧州向け、中国向けにそれぞれパイプラインで輸送されている。
- エネルギー・鉱物・資源開発への外資導入を重視するとともに、産業の多様化を図っているが、依然として資源エネルギー分野に大きく偏っている。

#### 主要産業

- 石油・天然ガス、鉱業、農業、冶金・金属加工

## 2 | 中央アジア各国の概況 (2)

### キルギス

#### 元首：サディル・ジャパロフ大統領



#### 経済概況

- 地方の集団農場長、石油製品販売会社経営を経験。議員になり政界入り。
- 2020年の議会選挙後、野党の大規模な抗議活動を受け、ジェエンベコフ大統領が辞任。ジャパロフ氏が大統領代行兼首相に選出、翌年の大統領選挙で当選。

#### 主要産業

- 農業・畜産業、金採掘

### タジキスタン

#### 元首：エモマリ・ラフモン大統領



#### 経済概況

- 1992年以降国家指導者の座に就き長期政権を確立。
- IMF、世銀と協力して経済発展および開発を進めている。
- 綿花栽培を中心とする農業、牧畜が主要産業。工業部門では繊維産業が比較的発達している。金、銀、銅、モリブデン、アンチモンなどの鉱物資源を有する。水資源が豊富。

#### 主要産業

- 農業（綿花）、アルミニウム生産、水力発電

### トルクメニスタン

#### 元首：セルダル・ベルディムハメドフ大統領



- 初代ニヤゾフ大統領が独裁体制確立。
- 2022年に父グルバングルイ・ベルディムハメドフ大統領が権力委譲を表明。選挙の結果、大統領に就任。

#### 主要産業

- 鉱業（天然ガス・石油など）、農業（綿花）、牧畜

#### 経済概況

- 埋蔵量世界4位の豊富な天然ガスの輸出を基盤に2010年代初頭まで高い経済成長率を実現。
- 多くは中国向けだったガス輸出先の多角化を、ロシアやイラン向け輸出を再開。TAPI（トルクメニスタン、アフガニスタン、パキスタン、インド）パイプライン建設計画に積極的姿勢を見せている。

## コラム 域内連携進め安定化へ

- 中央アジア各国は隣国、かつ旧ソ連構成国という共通項がありながら、必ずしも連携を深めてきたわけではなかった。経済的には各国とも資源や原材料を輸出する経済構造が基本であったことから、ビジネス上の競争相手という側面があった。加えて一部の未確定の国境の存在、水資源をめぐる対立など、政治的には若干の緊張感すら漂っていた。
- しかしここ数年は大きな転換点に来ている。域内の連携や安定化を深める動きが具体化している。
- 一例としては、2025年3月のキルギスとタジキスタンによる両国間の国境を確定させる条約への署名、同月にはウズベキスタン、キルギス、タジキスタンの国境の接点を定めた条約への署名が挙げられる。対立要因となっていた国境が一旦の結論を見たことは域内安定化に向けた大きな一歩だ。キルギスのローザ・オトゥンバエワ元大統領はこうした動きを「10年前にはなしえなかつた域内連携」と、その歴史的意義を指摘した。
- 他には中央アジア統一ブランド創出計画や第三国市場開拓に向けた企業の共同設立、インフラ構築を通じた連携などが議論されている。
- ウズベキスタンのシャフカト・ミルジヨエフ大統領は「共通の地域市場の形成」「独自の金融手段の導入」を提唱。さらなる連携の深化を目指す構えだ。

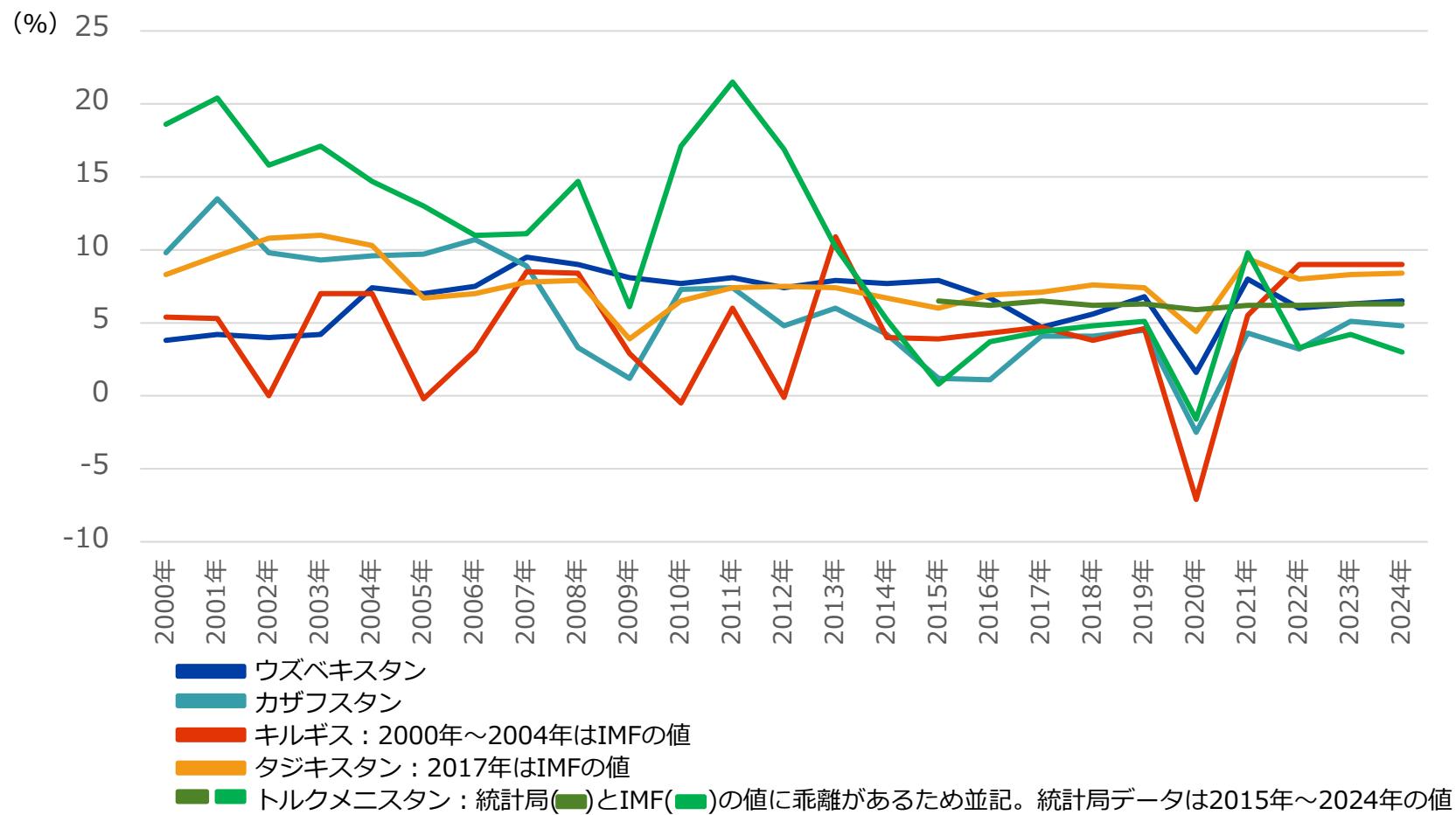


2025年5月に行われたアスタナ国際フォーラム。域内連携に関するセッションでは、キルギスのオトゥンバエワ元大統領が参加して域内連携の深化を指摘した（ジェトロ撮影）。

## II. 各国経済

# 1 | 実質GDP成長率

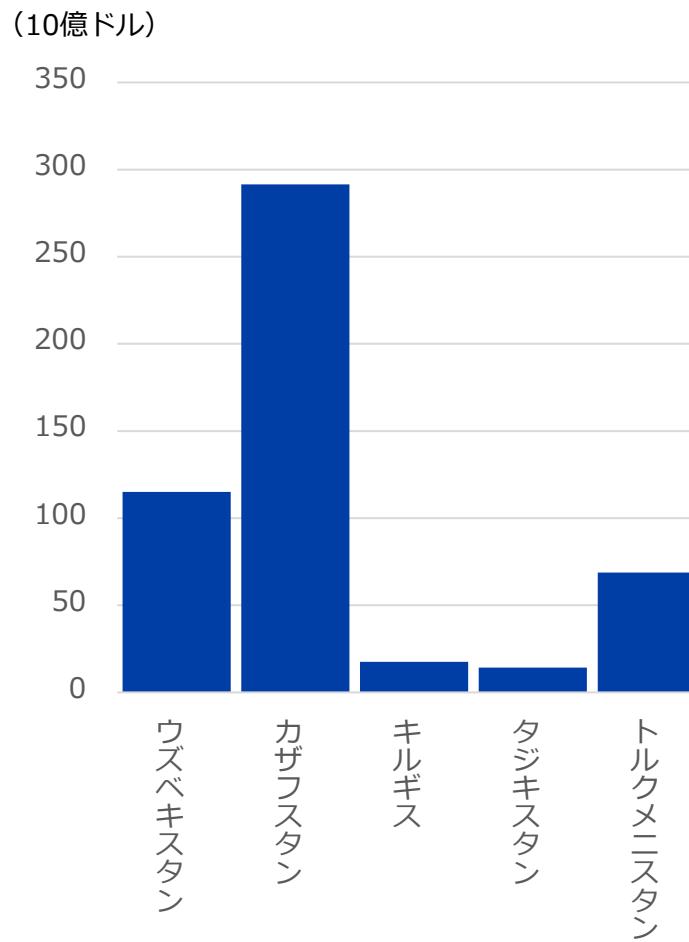
- ウズベキスタンとタジキスタンは、一定の成長率を維持。カザフスタン、キルギス、トルクメニスタンは成長率の増減を繰り返しつつ、**5カ国とも2017年頃から一定の成長率**。
- 5カ国のGDP成長率は**2020年に落ち込んだが翌年には持ち直し、2024年までほぼ同水準で推移**。



(出所) 各国統計局データ (データ不足分を国際通貨基金 (IMF) から引用)

## 2 | ドル建て名目GDP額 (2024年)

- 2024年のドル建て名目GDP額はカザフスタンが最も多く、次いでウズベキスタン、トルクメニスタン、キルギス、タジキスタンの順となる。
- このうち上位のカザフスタンとウズベキスタンが全体の80%を超える。



(出所) 国際通貨基金 (IMF)

### 3 | ドル建て1人当たりGDP

- 全体的にドル建て1人当たりGDPは**2000年以降緩やかに増加**傾向。**2020年に若干落ち込んだ**が、**再び増加傾向に回復**した。
- カザフスタンとトルクメニスタン**の2カ国は**1万ドル**を超える水準。

(単位：ドル)

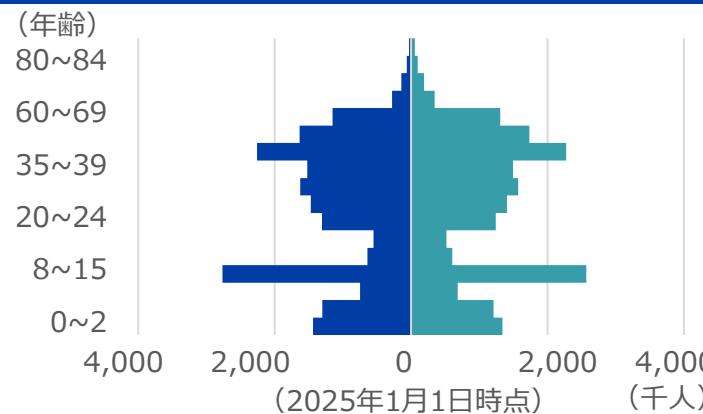
	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
ウズベキスタン	702	588	482	499	585	689	811	1,050	1,320	1,520	1,780	2,070	2,280
カザフスタン	1,230	1,490	1,660	2,070	2,870	3,770	5,290	6,770	8,510	7,170	9,070	11,630	12,390
キルギス	281	310	323	383	437	479	547	725	972	877	885	1,130	1,190
タジキスタン	159	167	188	236	309	337	402	519	702	666	738	835	950
トルクメニスタン	999	1,360	1,690	2,200	2,710	3,240	3,990	4,790	3,920	3,640	4,050	5,180	6,440
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
ウズベキスタン	2,440	2,650	2,760	2,710	2,170	1,800	2,020	1,960	2,240	2,560	2,850	3,110	
カザフスタン	13,890	12,810	10,510	7,720	9,250	9,810	9,810	9,120	10,370	11,480	13,160	14,460	
キルギス	1,300	1,290	1,130	1,130	1,250	1,320	1,470	1,270	1,390	1,810	2,190	2,470	
タジキスタン	1,040	1,110	919	801	845	852	893	858	925	1,090	1,220	1,390	
トルクメニスタン	7,050	7,690	6,210	6,170	6,350	6,720	7,300	7,270	7,800	8,810	9,640	10,410	

(出所) 国際通貨基金 (IMF)

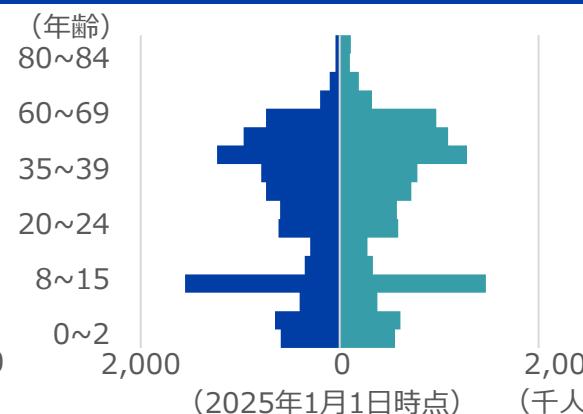
## 4 | 中央アジア各国の人口

- **ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス**は8~15歳が最も人口が多く、次いで40~49歳が多くなり、全体的に**ひょうたん型の分布**となっている。
- **タジキスタンとトルクメニスタン**はおおむね**ピラミッド型の分布**となっている。

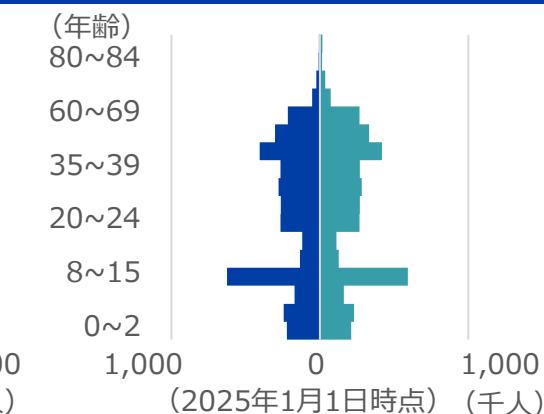
ウズベキスタン  
3,754万3,167人



カザフスタン  
2,028万3,399人



キルギス  
728万1,827人

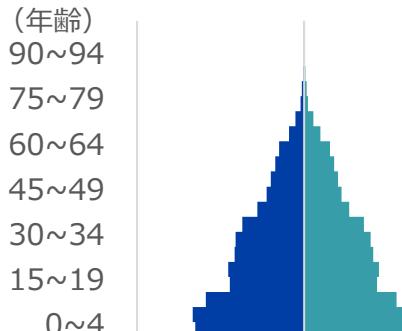


タジキスタン  
1,028万8,331人

■ 男性  
■ 女性

トルクメニスタン  
705万7,841人

(出所) 各国統計局



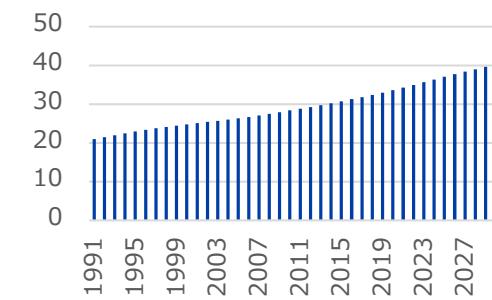
(注) トルクメニスタン統計局は最新データとして2022年の人口の値のみ公表。また、各年齢層の分布については割合(%)を公表。

# コラム 人口増が続くウズベキスタン

- 中央アジアの中でもウズベキスタンの人口増加は特筆すべきものがある。国連によると独立を果たした1991年に2,100万人だった人口が2021年にはおよそ1.5倍の3,400万人に増加。2030年には4,000万人に達すると予測されている（グラフ）。主に出生の高さに起因すると考えられ、ウズベキスタンの2024年の出生率（人口1,000人あたり出生時数の割合）は都市部で24.0、郊外で25.9であった。なお2024年の日本の出生率は5.7（厚生労働省）であった。
- しかし人口増加は課題も突き付ける。増え続ける若者に雇用を提供し続けるというという課題だ。産業が育ちつつあるとはいえ、これだけの若者の雇用を国内で吸収できる産業は多くはない。伝統的には外国でウズベキスタン国民が労働に従事するケースが多く見られる。2025年初頭時点で外国で労働に従事する国民の数は135万人。主要国はロシア、カザフスタン、トルコだが、足元ではロシアで労働に従事するウズベキスタン市民が急減。労働を受け入れる国の多様化も喫緊の課題だ。
- ウズベキスタン政府は雇用の確保、あるいは国民の能力開発に注力している。外国投資誘致やIT分野のアウトソーシング誘致はもちろん、ウズベキスタン国民が外国で労働する際の条件確保や出稼ぎ先の確保などは、ウズベキスタン政府要人が外遊する際の重要トピックでもある。また、日本をはじめ諸外国には教育機関の設置などウズベキスタンの若者の育成も期待している。実際に、日本や韓国、インド、フランスなどが高等教育機関を設置。ウズベキスタンの若者の能力開発を担っている。

## ウズベキスタンの人口推移

（単位：100万人）



（出所）国連

## ウズベキスタンの労働移民先国上位3位

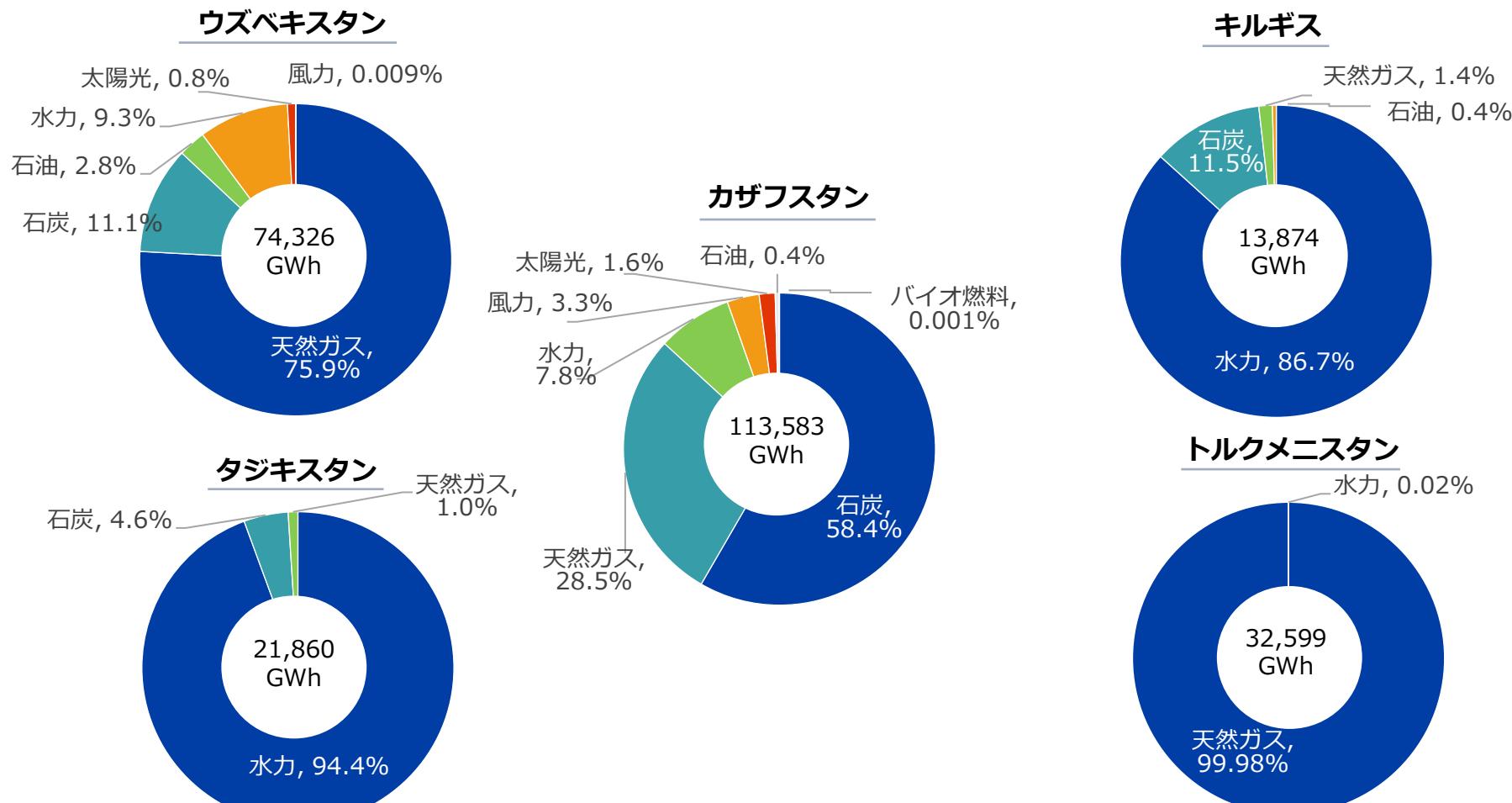
（単位：人）

	2023年	2024年
ロシア	120万	69.8万
カザフスタン	19.68万	32.27万
トルコ	11.98万	8.87万

（出所）Gazeta.uzを基に作成

## 5 | 電源別発電量（2023年）

- **ウズベキスタン**と**トルクメニスタン**は主に**天然ガス**を発電源としている。
- **キルギス**と**タジキスタン**は主に**水力発電**に依拠しており、**カザフスタン**では**石炭と天然ガス**を主な発電源としている。



（出所）国際エネルギー機関（IEA）

## 6 | 国際ランキング比較一覧

- モバイルコネクティビティ指数でカザフスタンが56位、SDGs達成度でキルギスが47位と世界である程度上位にランクインしている。
- アジア44カ国中グリーン成長指数でタジキスタンとキルギスが比較的上位にランクインしている。

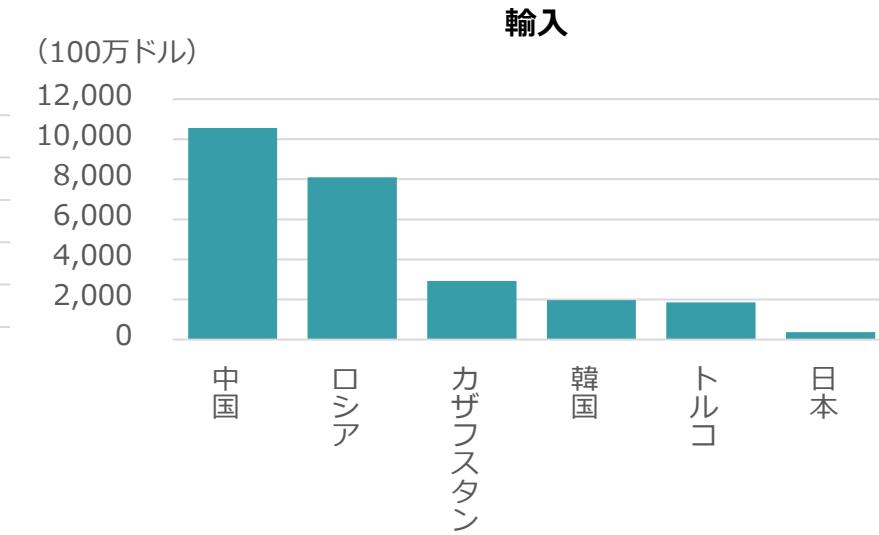
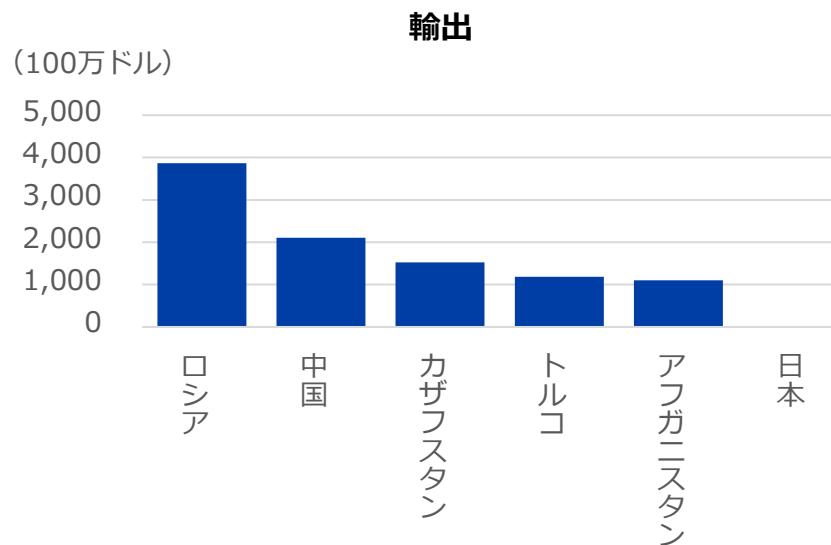
国名	イノベーション 指数 2025年順位 (139カ国中)	モバイルコネク ティビリティ指数 2025年順位 (173カ国中)	SDGs達成度 2025年順位 (167カ国中)	グリーン成長指数 2025年順位 (アジア44カ国中)	グローバル持続可 能競争力指数 2024年順位 (191カ国中)
ウズベキスタン	79位	86位	62位	27位	119位
カザフスタン	81位	56位	70位	22位	69位
キルギス	96位	106位	47位	16位	105位
タジキスタン	108位	147位	88位	13位	174位
トルクメニスタン	—	—	96位	—	166位
出所	世界知的所有権機関 (WIPO)	グローバルシステムモ バイルコミュニケーション協会 (GSMA)	国連持続可能な開発ソ リューション・ネットワー ク「持続可能な開発報告書2025」	グローバル・グリーン 成長研究所 (GGGI)	SolAbility

### III. 対外経済関係

# 1 | ウズベキスタンの国別輸出入額（上位5位 + 日本）

- ウズベキスタンは輸出・輸入ともに上位5位にロシア、中国、カザフスタン、トルコが含まれる。
- 輸出ではアフガニスタンが、輸入では韓国がそれぞれ上位に含まれる。

ウズベキスタン（2024年）

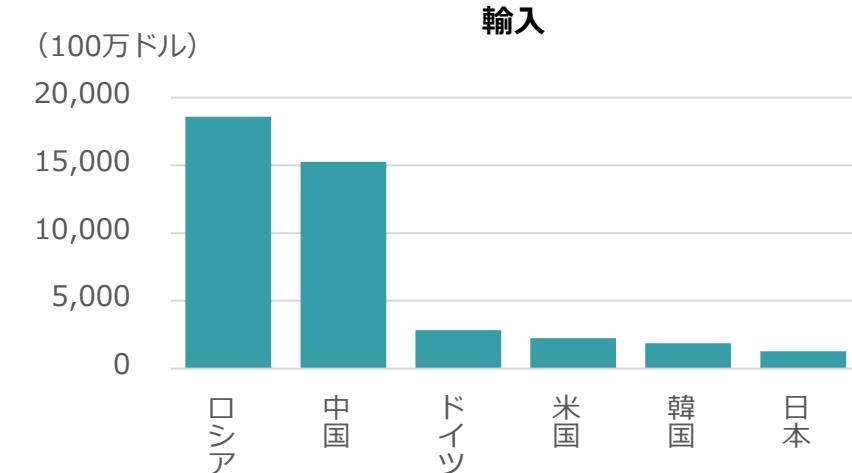
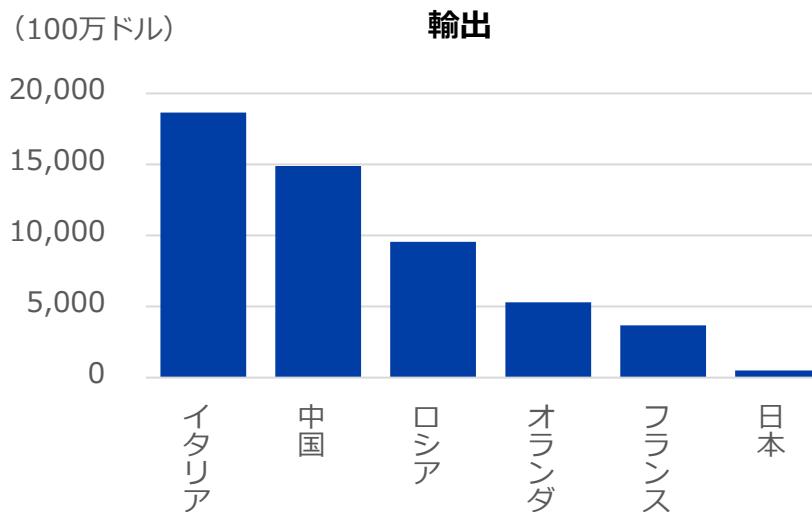


（出所）各国統計局

## 2 | カザフスタンの国別輸出入額（上位5位+日本）

- カザフスタンは輸出上位にイタリア、中国、ロシアの3カ国が、次いでオランダ、フランスが含まれる。
- 輸入についてはロシアと中国の2カ国が多くを占め、次いでドイツ、米国、韓国が含まれる。

カザフスタン（2024年）

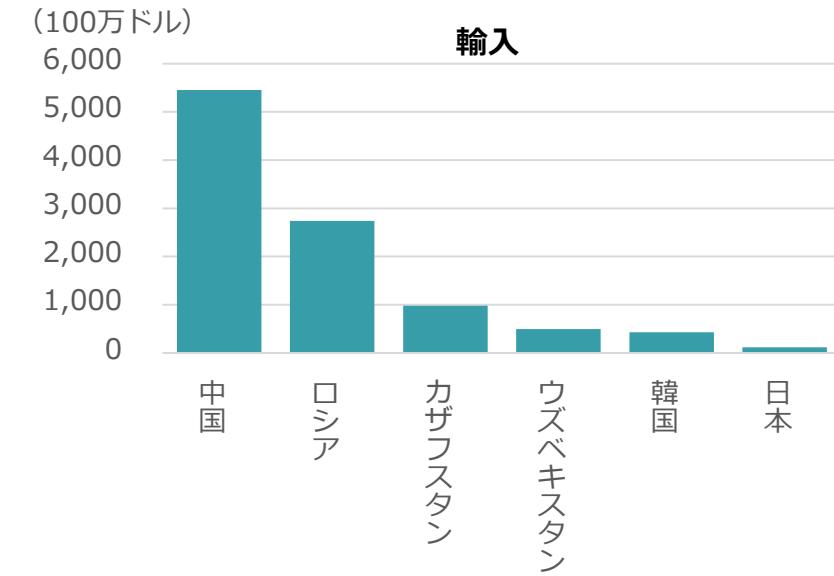
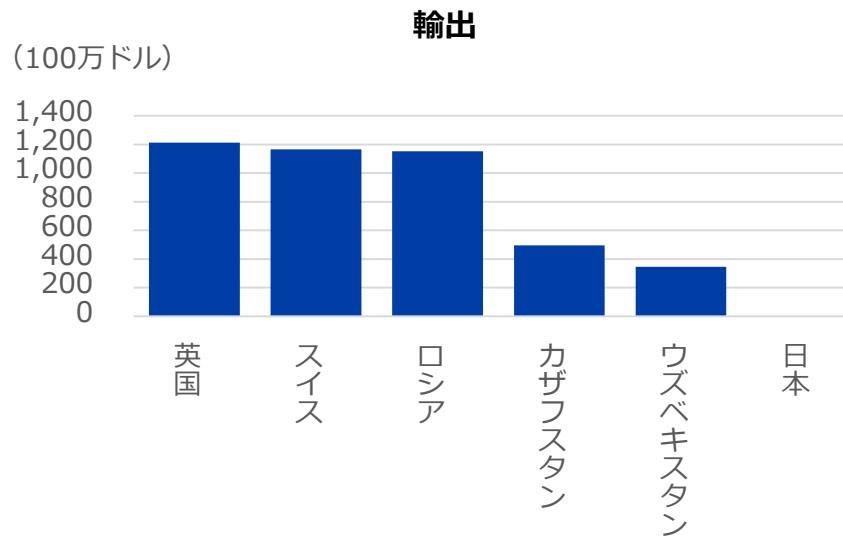


（出所）各国統計局

### 3 | キルギスの国別輸出入額（上位5位+日本）

- キルギスでは輸出上位に英國、スイス、ロシアの3カ国が、次いでカザフスタン、ウズベキスタンが含まれる。
- 輸入は中国とロシアの2カ国が多くを占め、カザフスタン、ウズベキスタン、韓国が続く。

キルギス（2024年）



国名	輸出 (1,000ドル)
英國	1,212,631.6
スイス	1,166,225.2
ロシア	1,151,703.2
カザフスタン	494,556.8
ウズベキスタン	346,858.8
日本	832.0

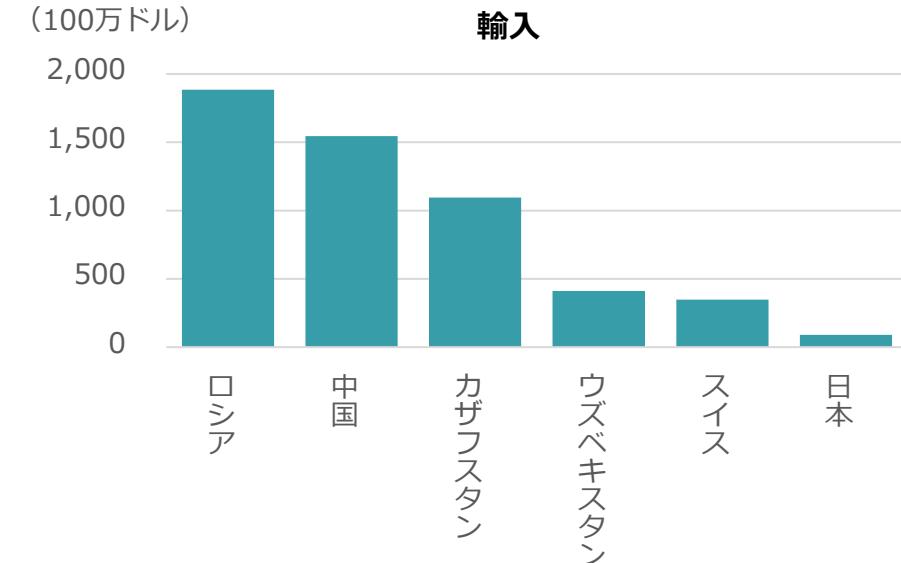
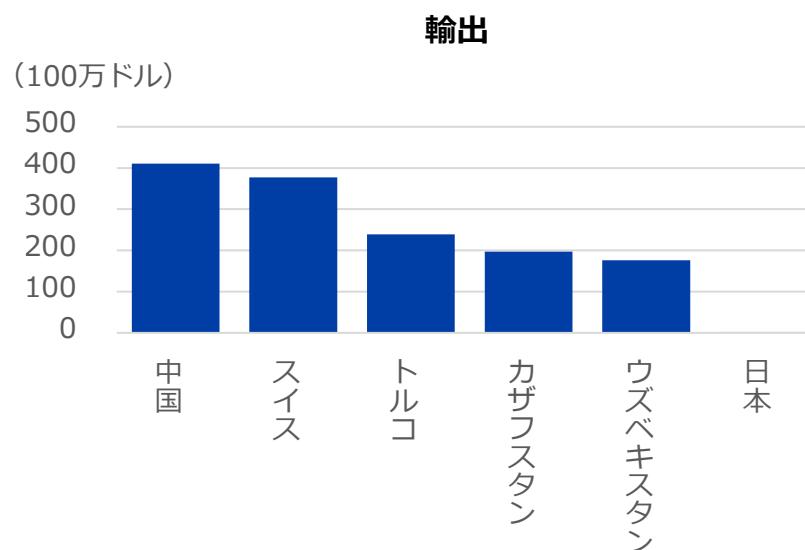
国名	輸入 (1,000ドル)
中国	5,452,774.6
ロシア	2,739,839.0
カザフスタン	978,855.6
ウズベキスタン	498,439.8
韓国	432,300.2
日本	118,797.2

（出所）各国統計局

## 4 | タジキスタンの国別輸出入額（上位5位 + 日本）

- タジキスタンは輸出上位に中国、スイス、トルコ、カザフスタン、ウズベキスタンが含まれる。
- 輸入ではロシア、中国、カザフスタンが上位を占め、ウズベキスタン、スイスが続く。

タジキスタン（2024年）

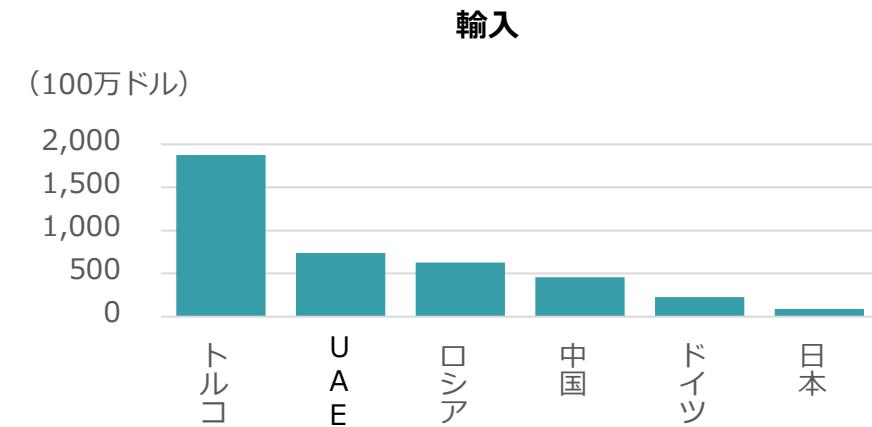
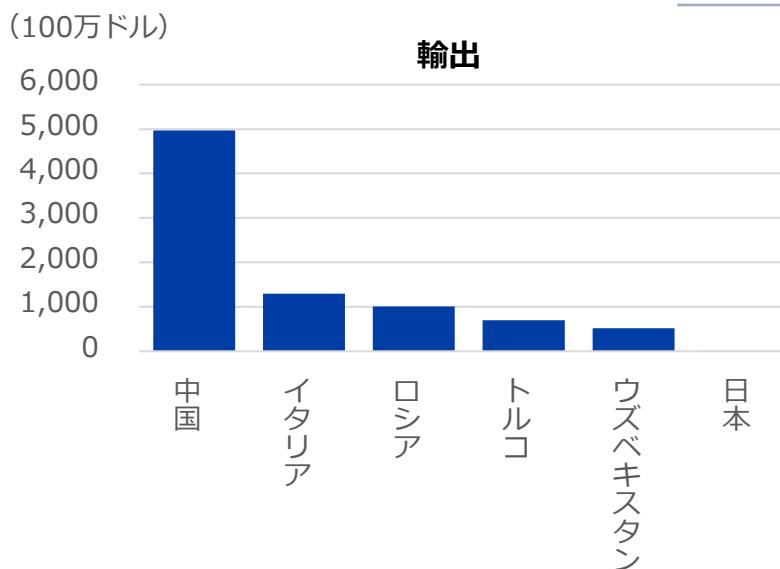


（出所）各国統計局

# 5 | トルクメニスタンの国別輸出入額（上位5位+日本）

- トルクメニスタンは中国への輸出が圧倒的に多く、次いでイタリア、ロシア、トルコ、ウズベキスタンが含まれる。
- 輸入ではトルコが多く、アラブ首長国連邦（UAE）、ロシア、中国、ドイツが続く。

トルクメニスタン（2021年）



# コラム 物流ハブを目指し「リブート・シルクロード」

- 中央アジアと言えばシルクロード。ユーラシア大陸の東西を結ぶ重要な交易路だったが、15世紀の海運ルート発達等により国際経済における存在感は低下した。現代でも中央アジア各国はいずれも大海に面さない内陸国そのため、貿易を行う上では不利な地理的条件だ。他国との物流ルートの改善は積年の課題であった。
- しかし近年、地政学的観点から物流ハブとしての中央アジアが注目を浴び、ルートの開発が進んでいる。その1つが「カスピ海横断国際輸送ルート」だ。これはユーラシア大陸を横断する物流ルートで、中国からカザフスタンを経由し、カスピ海を通ってコーカサスに入り、欧州に抜ける。特にロシアによるウクライナ侵攻後、ロシアを迂回できる同ルートに注目が集まり開発が進んでいる。利用実績も伸びており、カザフスタンのトカエフ大統領は同ルートの輸送量が2024年に前年比62%増を達成したと述べた。
- 現場ではリードタイムの短縮や輸送コスト削減、更なるインフラ整備等が課題として指摘されるものの、サプライチェーン多様化の観点で同ルートは世界貿易において重要な位置を占めうる。
- 他にも国際鉄道の建設計画もある。中国からキルギスを通りウズベキスタンに至る鉄道の工事が2024年12月に着工、2030年頃の完成を見込む。加えて、パキスタンからアフガニスタンを通り、ウズベキスタンまで至る鉄道もFS調査に向け協議を行っている。



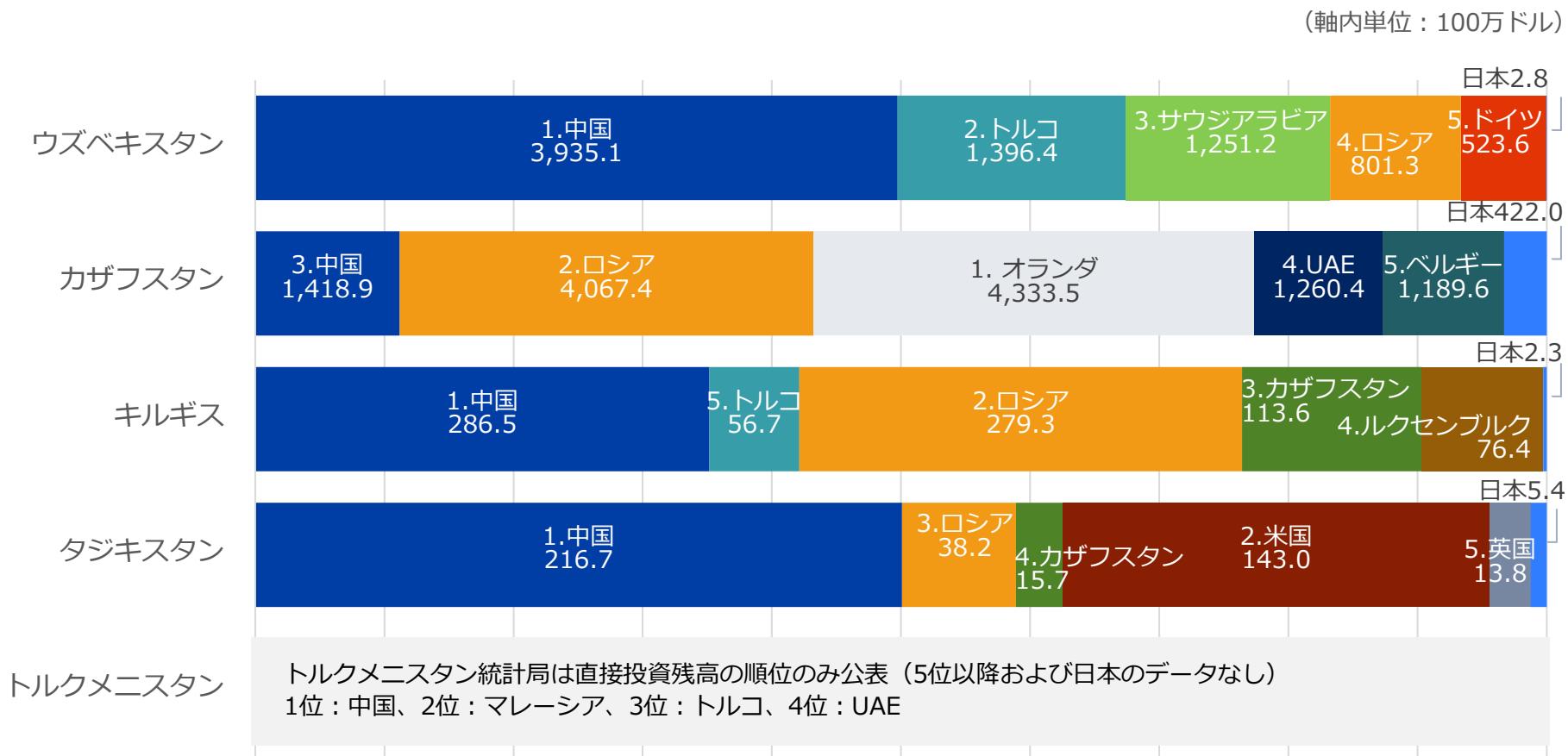
カザフスタンから望むカスピ海  
(ジェトロ撮影)



アクタウ国際商業港オフィスビル  
(ジェトロ撮影)

## 6 | 国別対内直接投資残高 2024年末（上位5位 + 日本）

- 各国の対内直接投資残高をみると、**ウズベキスタン**では**中国、トルコ、サウジアラビア、タジキスタン**では**中国と米国、カザフスタン**では**ロシアとオランダ、キルギス**では**中国とロシア**が上位。
- **トルクメニスタン**については**中国**に次いで**マレーシア**の割合が多い。



# 7 | 主要な埋蔵鉱物・石油・天然ガス資源の世界に占めるシェア (2022年)

- ウズベキスタンはレニウムで世界4位を占め、カザフスタンはウランで1位を占める。
- キルギスの金は世界33位。タジキスタンはアンチモンで2位、金属アンチモンで1位を占め、トルクメニスタンは天然ガスで11位を占める。

ウズベキスタン		
鉱物名	世界順位	シェア
レニウム	4	8.9 %
ウラン	5	6.7 %
テルル	7	0.5 %
インジウム	8	0.1 %
モリブデン	9	0.7 %
銅	8	—
金	9	3.4 %

カザフスタン		
鉱物名	世界順位	シェア
ウラン	1	43.0 %
マグネシウム金属	2	3.0 %
重晶石	4	8.0 %
ビスマス	5	1.0 %
レニウム	7	0.9 %
亜鉛	8	2.5 %
アンチモン	10	0.4 %
精製銅	10	1.9 %
採掘銅	11	2.7 %
シリコン金属	15	0.1 %
マンガン精鉱	15	0.7 %
リン鉱石	18	0.7 %
銀	10	0.04 %
金	7	3.8 %
原油	15	1.9 %

キルギス		
鉱物名	世界順位	シェア
金	33	—

タジキスタン		
鉱物名	世界順位	シェア
アンチモン (※)	2	15.0 %
金属アンチモン	1	—

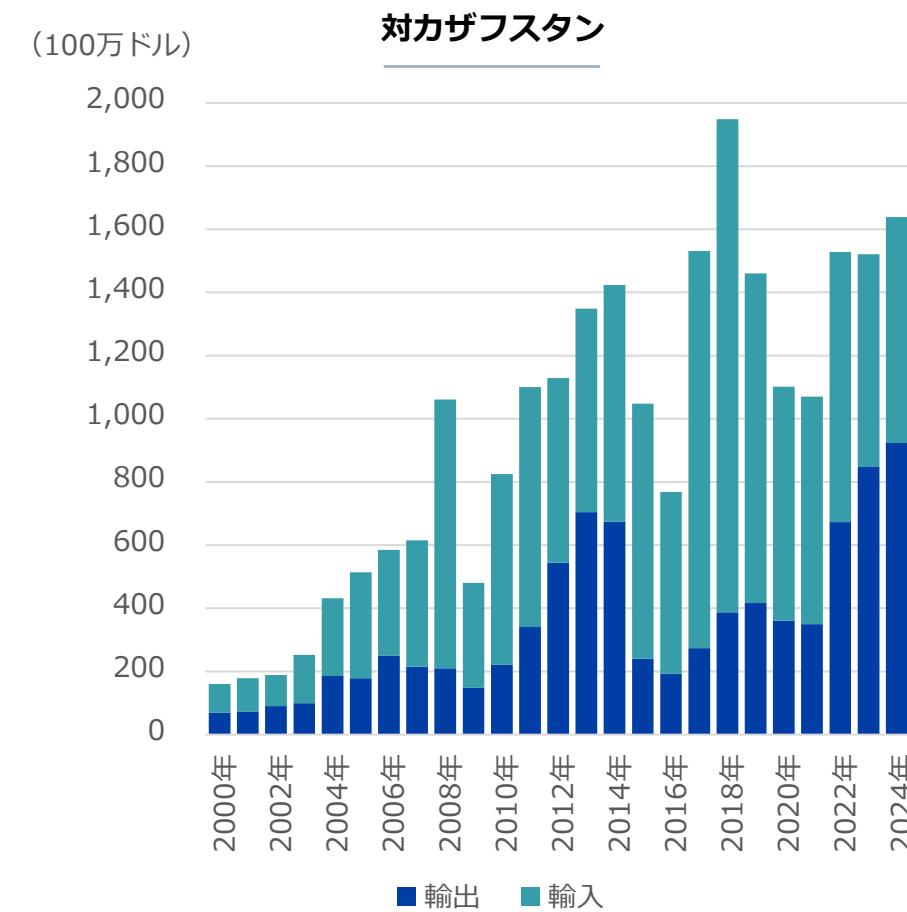
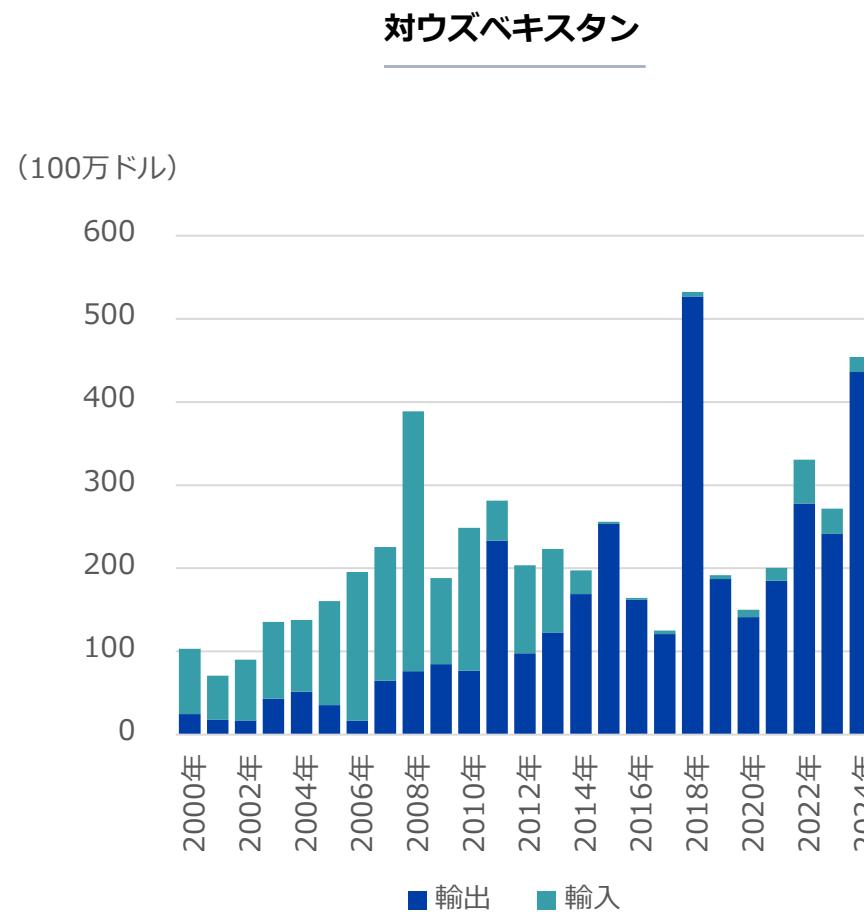
※ 採掘量は世界最大

トルクメニスタン		
鉱物名	世界順位	シェア
天然ガス	11	1.9 %
原油	35	—

## IV. 日本との関係

# 1 | 日本の対中央アジア貿易推移 (1)

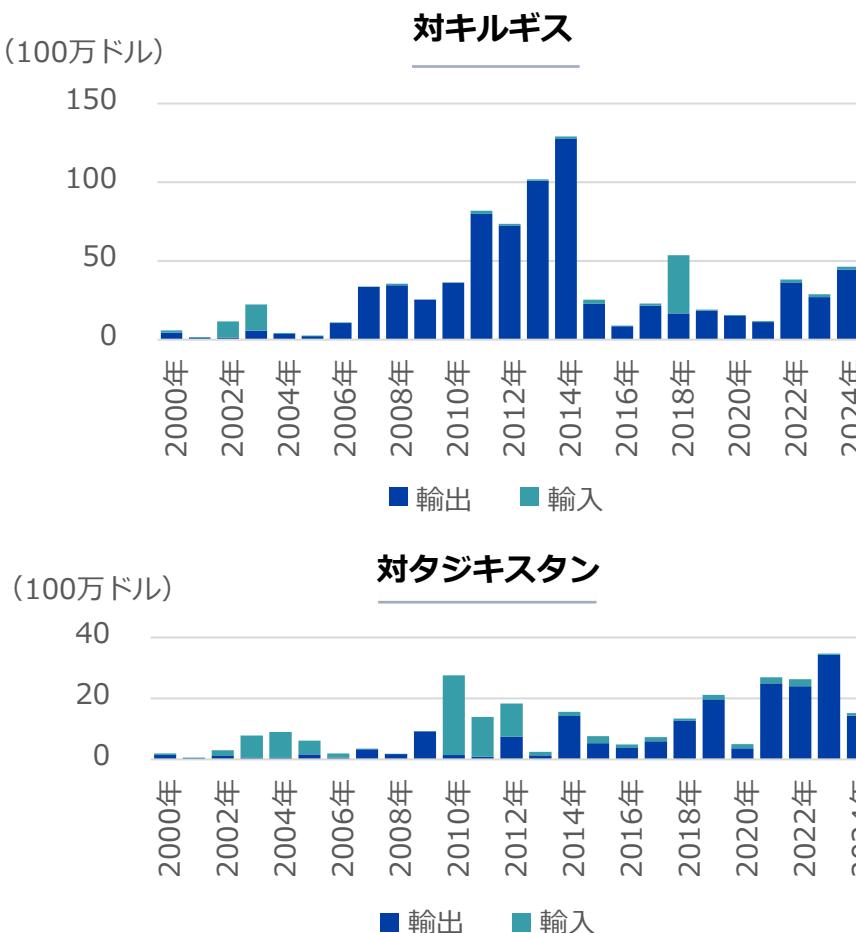
- ウズベキスタンとの貿易額（輸出入合計）は2008年まで増加、2009年に減少後、増減を繰り返し、2018年に急激に増加、2019年に減少後は、増減を繰り返しつつ増加傾向。
- カザフスタンの貿易額は減少に転じた年も確認されるがおおむね増加傾向。2018年が最多。



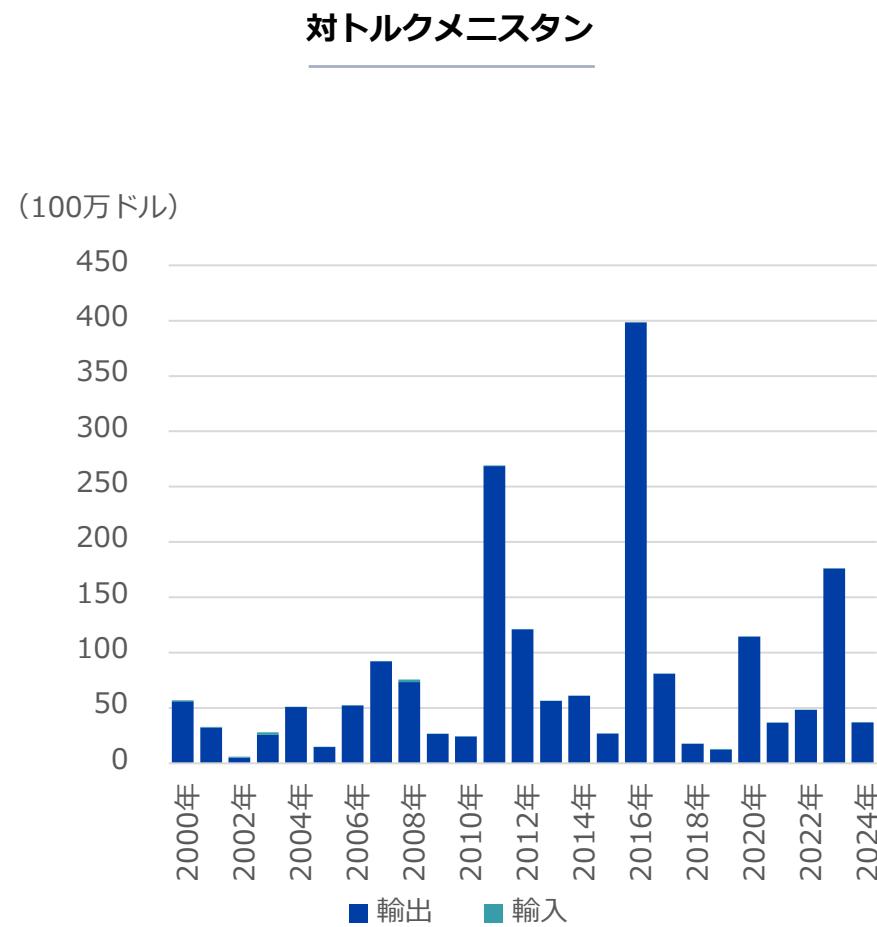
(出所) 財務省統計をもとにジェトロ作成

## 2 | 日本の対中央アジア貿易推移 (2)

- キルギスとの貿易額は2010年～2014年に増加、2015年は減少。それ以降は増加傾向。タジキスタンとの貿易額は増減を繰り返しながら全体的には増加傾向も2014年は減少。
- トルクメニスタンとの貿易額は2011年と2016年に急激な増加を見せたがおおむね増減を繰り返す傾向。



(出所) 財務省統計をもとにジェトロ作成



### 3 | 日本の対中央アジア貿易推移 (3) (2000~2008年)

- 上位3カ国（ウズベキスタン、カザフスタン、トルクメニスタン）の貿易収支は入超。トルクメニスタンは出超を維持。
- キルギスは2002年、2003年を除き出超。タジキスタンは2000年、2001年は出超も2002年以降入超に転じ、2007年から出超。

日本の対中央アジア貿易推移2000年~2008年（国別）

(単位：1,000ドル)

		2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
ウズベキスタン	輸出額	24,676	17,774	16,969	43,138	51,712	35,413	16,451	64,928	76,212
	輸入額	78,678	53,207	73,359	92,324	86,208	125,071	179,246	160,803	312,453
	貿易収支	△ 54,002	△ 35,433	△ 56,389	△ 49,186	△ 34,496	△ 89,658	△ 162,796	△ 95,875	△ 236,241
カザフスタン	輸出額	68,665	73,266	90,262	99,122	185,532	178,518	250,399	214,953	210,082
	輸入額	92,111	105,345	98,404	153,131	245,927	335,095	334,176	400,688	851,001
	貿易収支	△ 23,445	△ 32,080	△ 8,142	△ 54,009	△ 60,394	△ 156,577	△ 83,777	△ 185,734	△ 640,919
キルギス	輸出額	4,556	978	1,305	5,593	3,738	2,306	10,587	33,480	34,452
	輸入額	1,371	699	10,210	16,717	499	352	304	347	1,132
	貿易収支	3,185	279	△ 8,905	△ 11,124	3,239	1,954	10,283	33,133	33,320
タジキスタン	輸出額	1,425	481	1,074	432	451	1,646	544	3,289	1,745
	輸入額	545	127	1,886	7,371	8,570	4,455	1,396	285	6
	貿易収支	879	354	△ 812	△ 6,939	△ 8,119	△ 2,810	△ 852	3,004	1,739
トルクメニスタン	輸出額	56,113	32,475	5,286	25,704	50,928	14,691	52,387	92,161	73,556
	輸入額	722	421	869	2,407	199	7	104	72	2,219
	貿易収支	55,391	32,054	4,417	23,296	50,728	14,684	52,283	92,089	71,337

(出所) 財務省統計をもとにジェトロ作成

## 4 | 日本の対中央アジア貿易推移 (4) (2009~2016年)

- 上位3カ国の中でも、ウズベキスタンは2011年に出超、2012年に入超に転じるも2013年以降出超。カザフスタンは2013年に黒字となるも入超傾向。トルクメニスタンは出超を維持。
- キルギスは出超。タジキスタンは2013年以降出超を維持。

日本の対中央アジア貿易推移2009年~2016年（国別）

(単位：1,000ドル)

		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
ウズベキスタン	輸出額	84,784	77,067	233,144	97,894	122,913	169,111	253,259	161,969
	輸入額	103,388	171,551	48,164	105,685	100,484	28,351	2,727	2,610
	貿易収支	△ 18,604	△ 94,484	184,980	△ 7,791	22,429	140,760	250,532	159,359
カザフスタン	輸出額	148,430	220,878	340,633	544,583	704,330	673,521	240,619	192,477
	輸入額	332,112	604,082	759,648	584,253	644,686	749,992	807,491	576,230
	貿易収支	△ 183,682	△ 383,203	△ 419,015	△ 39,670	59,644	△ 76,471	△ 566,872	△ 383,753
キルギス	輸出額	25,307	36,196	79,977	72,469	100,998	127,833	22,675	8,521
	輸入額	221	186	2,040	1,061	783	1,222	2,696	359
	貿易収支	25,085	36,010	77,937	71,408	100,215	126,611	19,979	8,162
タジキスタン	輸出額	9,173	1,400	884	7,445	1,331	14,280	5,349	3,685
	輸入額	4	26,205	13,059	10,916	1,132	1,365	2,221	1,156
	貿易収支	9,169	△ 24,804	△ 12,174	△ 3,471	199	12,915	3,128	2,529
トルクメニスタン	輸出額	26,571	24,220	268,578	121,068	56,329	61,030	26,940	398,508
	輸入額	139	196	686	17	37	60	86	109
	貿易収支	26,432	24,024	267,892	121,051	56,292	60,970	26,854	398,399

(出所) 財務省統計をもとにジェトロ作成

## 5 | 日本の対中央アジア貿易推移 (5) (2017~2024年)

- 上位3カ国（ウズベキスタン、カザフスタン、トルクメニスタン）の貿易収支は、ウズベキスタンは出超、カザフスタンは入超傾向が続いたが、2023年以降は入超、トルクメニスタンは出超を維持。
- キルギスは2018年に入超となつたがおおむね出超、タジキスタンは出超を維持。

日本の対中央アジア貿易推移2017年~2024年（国別）

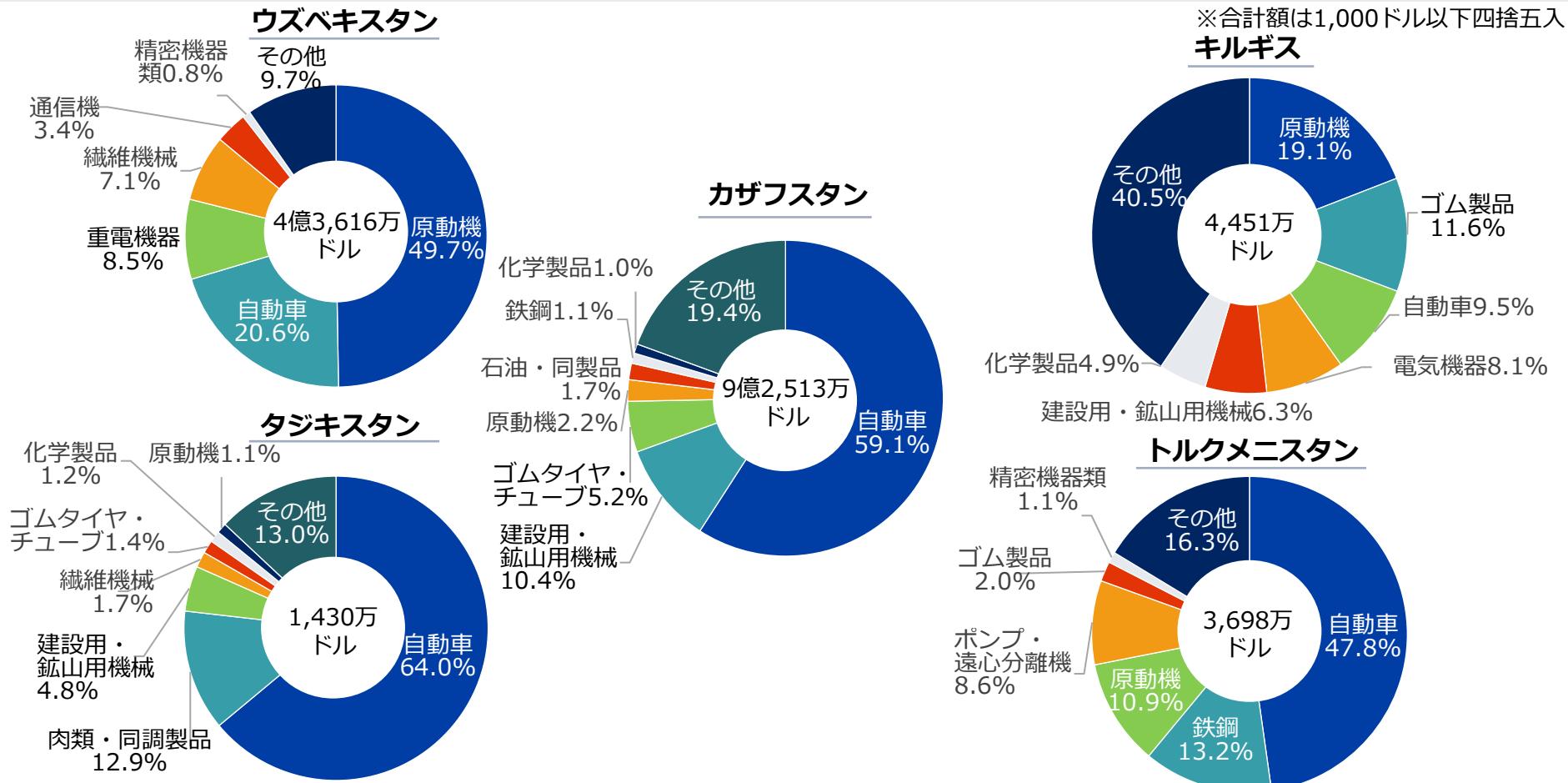
(単位：1,000ドル)

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ウズベキスタン	輸出額	120,854	526,787	187,017	141,219	184,993	277,766	241,350	436,158
	輸入額	4,467	5,310	4,649	8,843	15,495	52,729	30,240	17,888
	貿易収支	116,387	521,477	182,368	132,376	169,498	225,037	211,110	418,270
カザフスタン	輸出額	273,901	387,521	417,168	361,232	349,534	673,487	849,566	925,125
	輸入額	1,257,477	1,560,617	1,042,610	739,993	720,951	854,880	671,961	713,239
	貿易収支	△ 983,576	△ 1,173,096	△ 625,442	△ 378,761	△ 371,417	△ 181,393	177,605	211,886
キルギス	輸出額	21,609	16,641	18,550	14,946	11,194	36,363	27,039	44,512
	輸入額	1,353	36,988	538	600	569	1,764	1,902	1,802
	貿易収支	20,256	△ 20,347	18,012	14,346	10,625	34,599	25,137	42,710
タジキスタン	輸出額	5,900	12,744	19,717	3,644	24,896	24,049	34,241	14,302
	輸入額	1,456	688	1,494	1,378	2,037	2,289	444	917
	貿易収支	4,444	12,056	18,223	2,266	22,859	21,760	33,797	13,385
トルクメニスタン	輸出額	80,945	17,647	12,263	114,560	36,837	48,331	175,944	36,980
	輸入額	106	197	628	78	90	175	114	198
	貿易収支	80,839	17,450	11,635	114,482	36,747	48,156	175,830	36,782

(出所) 財務省統計をもとにジェトロ作成

## 6 | 日本からの輸出品目別割合 (2024年)

- 日本の**対中央アジア輸出品目**では**原動機および自動車が上位**を占める。
- そのほかウズベキスタンは**繊維機械**、カザフスタンは**建設用・鉱山用機械**、キルギスは**ゴム製品**、タジキスタンは**肉類・同調整品**、トルクメニスタンは**鉄鋼**が上位を占める。

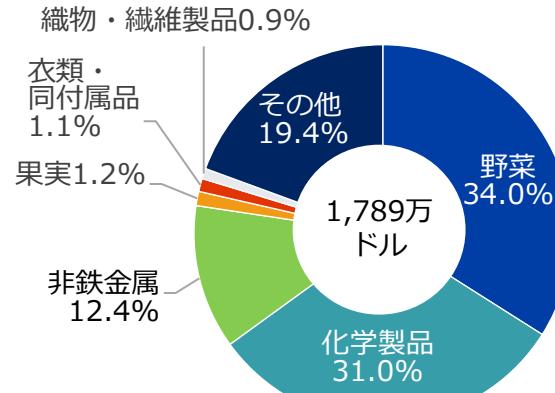


(出所) 財務省統計をもとにジェトロ作成

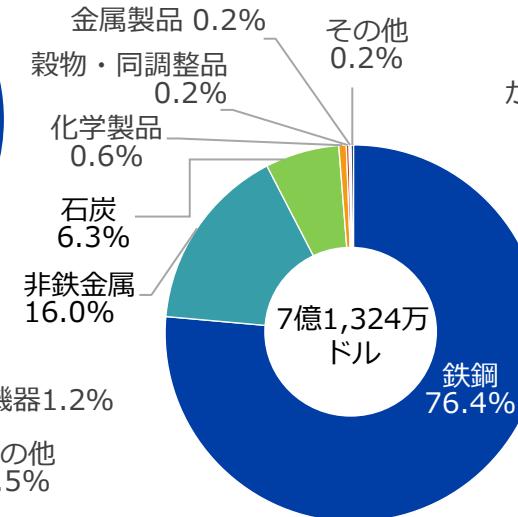
# 7 | 日本への輸入品目別割合 (2024年)

- ウズベキスタンは野菜と化学製品、カザフスタンは鉄鋼、キルギスは電気機器、タジキスタンは医薬品と食料品、トルクメニスタンは原材料が上位を占める。
- その他、カザフスタンの石炭、キルギスのはちみつ、トルクメニスタンのキシレンの輸入も多い。

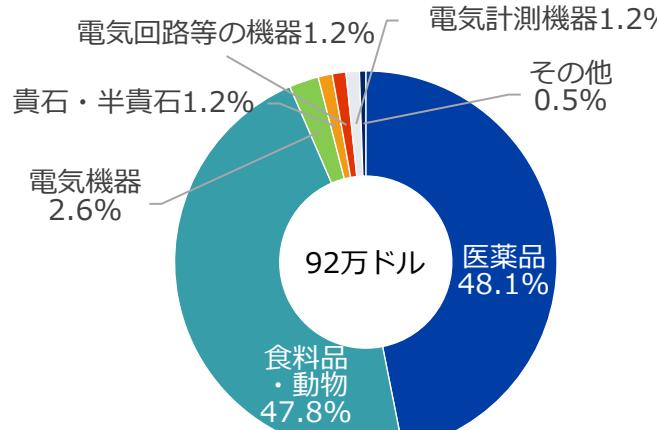
## ウズベキスタン



## カザフスタン

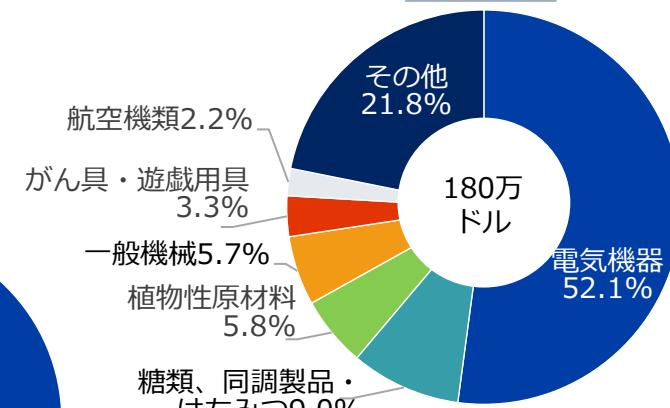


## タジキスタン

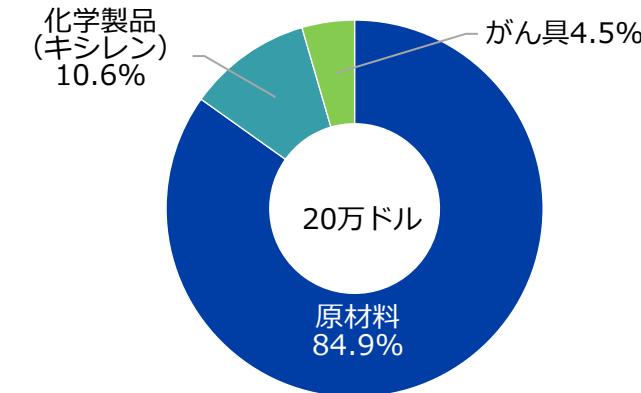


※合計額は1,000ドル以下四捨五入

## キルギス



## トルクメニスタン



# 8 | 中央アジアに進出する日系企業の拠点数・在留邦人数

- 日系企業の拠点数：上位のウズベキスタンとカザフスタンの合計は常に**全体の70%超**。
- 在留邦人数：上位のウズベキスタン、カザフスタン、キルギスの合計は常に**全体の80%超**。

中央アジアに進出する日系企業の拠点数推移（国別）

(単位：社)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ウズベキスタン	18	15	17	18	22	23	24	27	29	33	37	41	54
カザフスタン	49	54	43	45	45	51	52	36	36	36	35	38	36
キルギス	(注) 5	5	6	6	4	5	5	8	14	15	17	13	11
タジキスタン	3	1	2	4	3	3	3	2	2	3	5	5	6
トルクメニスタン	4	4	3	4	6	7	6	9	8	6	7	7	7

(注) 実数不明

(出所) 外務省統計をもとにジェトロ作成

中央アジアの在留邦人数推移（国別）

(単位：人)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
ウズベキスタン	126	117	110	126	137	132	127	138	155	133	152	163	161
カザフスタン	126	135	155	153	165	163	174	171	114	121	126	132	148
キルギス	136	142	156	141	139	135	145	140	109	132	118	122	134
タジキスタン	47	32	36	40	40	36	38	40	31	41	58	59	57
トルクメニスタン	13	16	20	26	55	71	70	39	12	32	14	14	16

(出所) 外務省統計をもとにジェトロ作成

# レポートをご覧いただいた後、 アンケートにご協力ください。

(所要時間：約1分)

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20250035>



## レポートに関するお問い合わせ先

日本貿易振興機構（ジェトロ）



03-3582-1890

調査部 欧州課ロシアCIS班



ORD-RUS@jetro.go.jp



〒107-6006  
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

### ■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関する連絡して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載